

「2015年中国・浙江大学スプリングスクール 参加報告書」

京都大学経営管理教育部1年 (氏名) 小田 直樹

① 学習成果

中国語能力については、わずか2週間の滞在にもかかわらず大いに向上できたと感じます。私のクラスの授業は全て中国語で行われたため、「中国語で中国語を学び、考える」という初めての経験によって、新たな中国語の脳内回路が開いたように思います。また、クラスには世界の様々な国々からの留学生がいたので、彼らとの交流を通じて様々な意見を交わすことができました。欧米人らと中国語で会話するという不思議な感覚を楽しみましたが、彼らの意見でとりわけ印象深かったことは、彼らが今後の仕事、キャリアにおける中国という国家そのもの、経済大国およびマーケットとしての中国の重要性和、それゆえの中国語学習の必要性を感じていた点です。日本ではどうしても欧米、英語にばかり目が向きがちですが、それらが重要なことは当然ながら、隣国かつ極めて重要な中国、中国語を重視している日本人学生は不自然なほど少ないのではないかと感じました。実際、浙江大学にいた長期日本人留学生も隣国であることを鑑みると少な過ぎると思いました。その点、本プログラムを通じて中国および中国語に対する研究意欲、学習意欲が高まった私が、それらの意義を一人でも多くの学生、院生に伝えていくことができればと考えています。

② 海外での経験

大学内での学習以外のフィールドワークも充実していました。杭州の西湖、靈隠寺、岳廟、龍井茶畑、上海、蘇州、紹興など、全て自分たちで計画して出かけ、同行してくれた中国人学生との親交も深めつつ無事に満喫することができました。杭州、上海、蘇州および紹興という4都市へ訪れましたが、中国の諸都市の中では比較的似ているといわれるそれらでも都市によって、空気感、食、交通マナー、訛りなど大きく異なる点が多いと実感しました。考えてみれば、蘇州はかつての呉の国、紹興はかつての越の国と異なる国だったわけです。我々は今回、広大な中国のほんの一部を経験しただけであり、これらが中国であると考えてはならないと肝に銘じることができました。

③ プログラム内容

上述のとおり、中国語学習のみならず各国からの留学生との交流やフィールドワークの時間も多く取ることができたため、学習したことをすぐに実践できて効率的でした。また、中国文化・社会に関する講座や浙江大学の学生たちへのプレゼンテーションおよび意見交換会もあり、様々な形で中国を知り、学ぶことができる充実したプログラムであると感じました。

④ 進路への影響

これからの日本にとって、アジアに強いグローバル人材も重要になってくると考えます。そこで私は、これから英語力と中国語力をともに磨き、中華圏の友人、知人ネットワークをもっと広げていき、それらを経営管理大学院で習得するビジネスノウハウとともに自らの武器として、修了後は、アジアが一つの経済圏としてともに繁栄していくための仕組み作りまたはリアルビジネスに携わりたいと思います。